

EDSS を知っていますか？

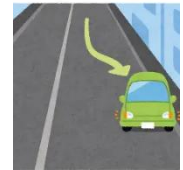
車の先進安全技術の一つに「EDSS（Emergency Driving Stop System：ドライバー異常時対応システム）」があります。運転者が急病や意識喪失などで操作不能になった際に、車両が自動で安全に停止し、重大事故を防ぐための装置です。

ドライバーの急病による事故も発生しています。心筋梗塞や脳卒中などは誰にでも起こり得ることから、「もしもの時」に命を守る重要な装備として注目されています。現在は商用車を中心に普及が進んでおり、乗用車では一部車種から搭載が始まり、今後の拡大が見込まれています。



EDSS が行う主な動作（国土交通省のホームページで動画を見ることができます）

- ・ドライバーの異常を検知（姿勢・視線・操作の異常など）
- ・周囲への警告（ハザードランプ・クラクション）
- ・自動で減速
- ・車線内での停止、又は路肩へ退避して停止 など



EDSS と似た装備



○ドライバーモニタリングシステム（DMS）

車内カメラやセンサーで運転者の状態を監視し、眠気・脇見・注意散漫などを検知して事故を未然に防ぐ装置。近年、搭載車が増えています。

○自動ブレーキ（AEB）

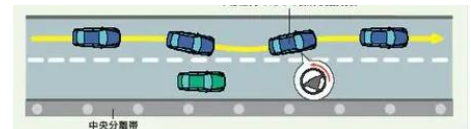
前方の車両・歩行者・自転車などをセンサーで検知し、衝突の危険が高まると警報を発し、自動制御により事故を回避・軽減する先進安全装備



○運転支援（ACC・LKA）

ACC：前方車との車間距離を自動で維持しながら、設定速度で走行する機能

LKA：車線からはみ出しそうなときに、ステアリング操作をアシストする機能



EDSS は運転者が運転不能になった際に車両を安全に止める装置、DMS は運転者の状態を常時監視し、異常を早期に検知する装置です。このように、EDSS は「運転者の異常に特化した最後の砦」といえる安全装置です。

急病は誰にでも起こり得ます。日頃から体調管理を心掛けるとともに、安全装備を正しく理解し、安心して運転できる環境づくりを進めましょう。

